

## 世代間交流八王子駅前サロンプロジェクト 2024

団体名 多摩大学梅澤佳子ホームゼミナール4年

メンバー ○雨宮永大、大串慶斗、近藤直希、清水寛太、鈴木達也、徳常生吹、酉田凌馬

### ① 事業内容

本事業は八王子市高齢者あんしん相談センター旭町（以下、センター）、八王子市民生委員児童委員協議会第4地区民生委員（以下、民生委員）、有志と学生が協働して駅前という特徴を活かした高齢者サロンの運営を行うものである。プロジェクトは「世代間交流」をキーワードに高齢者の健康寿命の一助となることを目的とし、高齢者が自然体でゆったりと過ごすことができる「みんなのゆったりサロン」を心がけている。サロンは2016年より4年間で36回運営してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年2月から一時休止となった。そこでオンラインによる高齢者サロンの仕組みづくりを2年かけて進めた。2022年7月からはコロナ対策を徹底し、完全対面に戻した。サロンは2025年1月に第67回を実施した。  
※これまでの事業の詳細については、2016年から2023年までの「学生企画事業補助金事業報告書」をご参照いただきたい。

### ② 実施報告

#### ア. 駅前サロンの企画・運営について

駅前サロン（以下、サロン）は9年間ゼミ内で引き継ぎながら、参加者や連携団体の声を聞き、より良いサロンを目指して活動を行ってきた。サロン終了時にスタッフミーティングを行い、そこで出た課題や修正点を議事録にまとめ、翌週のゼミで全体に共有し議論を重ね、次回のサロンに向けて準備を進めた。（ゼミの合言葉は「段取り八分仕事二分」）

今年度は「ご歓談の時間」の見直し、「学生の近況を紹介するコーナー」の新設を行った。「ご歓談の時間」については、決まった人が多く話

してしまい、他の参加者が話せないという課題があった。この課題を解決するために、グループ分けを行い、学生が決めたテーマで1人が話す時間を決めたことで、全員が発言し、公平に楽しく歓談するように工夫した。「学生の近況を紹介するコーナー」は、参加者から「今どきの学生の就活や学生生活、アルバイトなどについて知りたい」という要望を複数いただいたことから始めた新しい取り組みである。ゼミ生全員が4年生であることから就職活動体験記や将来の夢、アルバイト事情など話す内容は、ゼミ生によって様々である。このコーナーは参加者に大好評である。「学生生活動画」の深化版である。このコーナーが後に続くご歓談の時の話題の切り口になり、参加者から社会人としての心構えなど多岐にわたるアドバイスをいただいている。歓談の中身がより深いものになっている。

加えて進行方法でも努力したことがある。それは、参加者と双方向での会話を意識したことである。進行を行うにあたって、参加者に発言を呼びかけた。この取り組みにより参加者も運営に参加することになり、サロンの「場」に一体感が生まれた。レクリエーションや合唱、体操も好評であり継続して行っている。

第66回（12月）のサロンでは、「学生企画事業補助金」採択団体「Light Bulb」様から依頼を受け、薬学教育「ポリファーマシーと湿布薬」について紹介する時間を設け協力した。参加者の方々から多くの質問が寄せられた。

#### イ. 世代間交流スマホ何でも相談会について

サロン開催時にスマートフォンや携帯電話の使用方法について質問を受けることが多々

ある。サロン内では対応が難しいため、昨年度から「世代間交流×スマホ何でも相談会」を開催してきた。目的は高齢者の困っていることを解決すること、スマホを安心・安全に使用してもらうこと、情報格差をなくすことである。今年度は1回開催した。

1人20分～30分程度の時間かけ、マンツーマンで相談や質問にできる限り応えた。自宅に戻って何度でも見直し、1人で解決できるように質問と解決方法を記載した紙を作成し手渡ししている。質問は些細なものが多く、有料サービスが要るものではないため、学生が対応する価値があると考え。また、世代間交流の場を設け、学生との交流を楽しんで頂いている。

今年度は八王子学園都市大学様からいちょう塾受講生を対象にしたスマホ教室の依頼を受け12月2日・13日に実施した。目的はいちょう塾のサイトの登録をサポートすることであったが、参加対象者の条件を広げ、さらにスマホに関する相談も受け付けた。

### ③ 事業を実施した感想

#### ア. 世代間交流八王子駅前サロン

今年度は4年7名と限られた人数の中で2つの事業に真剣に取り組むことができた。人数が少ないことでこれまで以上にサロンに参加し、参加者と交流する場、時間を増やすことができた。次第に距離が縮まり、親密になったことでゼミ生の名前や趣味を覚えてくださり、ハイタッチや握手などのスキンシップが増えていった。私たちも参加者を楽しませたいという気持ちがより一層強くなり、事前準備において細部まで拘るようになった。その結果、当初の目的は「ゆったりサロン」であった筈が、全員参加の大盛況サロンになっている。連携団体の皆様からは、毎回、お褒めの言葉を頂いている。

私たち学生のコミュニケーションは、SNSの普及やデジタル技術の進歩により、オンライン上のやり取りが大半となっている。当初、異世

代の参加者と対面で直接会話することには、なかなか慣れなかった。しかし今は楽しみになっている。対面で直接会話をするのは誰かの支えになり、人々に喜びを与えるのだと学ぶことができた。

この活動を通じて、多世代で交流でき、お互いに気兼ねなく、相談や話しができる場を地域にもっと増やすべきであると考えようになった。ちょっとした繋がり、ささやかな互助が日常を安心感のあるものにし、喜びあるものにするのだと感じた。

#### イ. 世代間交流×スマホなんでも相談会

この活動を通して気づいたこととして、高齢者の悩みを解決するためには1対1の丁寧な対応が必要である。例えば「スクロール」という指の使い方など私たちが当たり前に行っている用語が理解されないことがあり、その都度言い換えや分かりやすい言葉に変えて説明を行っている。相談内容などから高齢者を狙った詐欺が横行していること、そのような状況の中で日々緊張した生活を送っていることがわかった。キャッシュレスのため、ポイントのためと言われ多くのアプリをインストールし、使いこなさなければならない現状は、高齢者にとって大きなストレスになっている。果たしてスマホに慣れない高齢者に利用を進めることがよいのだろうか。今は社会の方が、スマホを使いこなせない高齢者側に寄り添い応じるほうが良いのではないかと考える。いずれにしても学生が高齢者の力になれることは多い。

#### 謝辞

長年にわたり本プロジェクトにご協力頂きました八王子市高齢者あんしん相談センター旭町様、八王子市民生委員児童委員協議会第4地区民生委員様、有志の皆様へ深謝申し上げます。また、9年間ご支援いただきました大学コンソーシアム八王子の皆様へ心よりお礼申し上げます。